

1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	(株) 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172200210&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束・虐待に対する認識を持ち、御利用者様の尊厳が守られるケアを念頭に置きながら、その方らしく暮らせる環境づくりを行っております。また、寝たきり、経管栄養導入の状況にも対応し、ご家族様や主治医と連携を図りながら終身まで看取らせて頂く体制づくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や家族との良好な関係作りから、情報の相互提供と確保に努めている。管理者と職員は専門職としての責任を持ち、利用者のよき理解者になり、「利用者がその人らしく生きる」ことが出来るよう、出来る力を引き出し活かした日々の生活を支援している。利用者との昼食時の会話は、和気あいあいと笑いで、笑い声と共に食後もずっと続いていた。重度化や終末期の対応は、家族、利用者、職員、関係医師とも、早い段階からよく話し合いがされ、日々の安心な生活につながっている。数回の看取りの経験もあり家族に感謝されている。時々遠出の外出は、事前に先方との十分な調整を行い、利用者とともに、職員も一緒に楽しんでいる。

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心得の唱和をし、その理念を皆で共有し実践するよう日々意識している	<人と自然が「共」に「寿」ぐ空間>を理念に掲げ、管理者と職員は、利用者の持っている力を生かしながら安心な生活が出来るよう専門職としての責任を持ち、支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公共施設を利用したり、日常的に散歩をしたり、イベントに参加する等、地域に出向く機会を作り、交流できるよう取り組んでいる	小学校の下校時間に合わせ交通パトロールを実施したり、中学生の職場体験も受け入れを行うなど地域の一員としての役割を果たし日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・ご家族や、面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスやサービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームにおける活動状況やインシデント・アクシデントの状況等を報告し、またご家族様の御意見を伺い、そこで出された意見を実際のサービスに活かしている	ホームの活動状況を報告し、意見、要望などをサービス向上に活かしている。しかし、会議の出席者が地域の限定されたメンバーとなるため、法人内の他のホームと合同会議を予定するなど会議のあり方を検討している。	今後の取り組み目標とされているように、地域も巻き込んだ開催と、会議をサービス向上に活かせるよう今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいております。また、活動状況を把握していただいております。また、困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている	市の福祉課と連携し入居に先立っての情報交換や相談を行い、アドバイスを得たりしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を行い職員の理解徹底に努めている。生活されている利用者様に抑圧感を与えない暮らしができるようなケアを目指している	身体拘束についての勉強会や話し合いを行っている。日中は玄関の鍵も施錠はしていない。そわそわしたり、帰宅願望のある利用者にはスタッフが察知し危険のないよう配慮している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういう内容をいうのか等の正しい知識を勉強しながら、虐待行為に至る前の段階で防止するための、管理体制や職場風土の改善に向けて取り組む事ができた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には社協や他事業所が主催する研修があることを情報提供している。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援できる体制を作って活きたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改訂による利用料の値上げ時や利用者様の状況に伴う料金の増加がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、特に訪問時、何でも言っていただけの雰囲気づくりに心掛け、御意見や思いを職員間で共有し、ケアに反映させている	家族の希望から外出の機会を増やしたり、職員の名前がわからないという家族の意見には玄関にスタッフの顔写真と名前を紹介するなど意見や要望に応えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日頃のコミュニケーションを図っていく中で職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる	月1回のカンファレンスや随時、職員が意見や提案を言える機会がある。職員との人間関係づくりに努め、キッチンに安全のための柵を設ける等職員の発案を受けての改善も行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等、現場で起きている状況の把握に務めて 必要に応じて迅速な対応をしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会においては、大まかな年間計画を立て、全職員が研修内容を共有できるよう報告する機会を作っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの体験実習を受け入れたり、他グループホームと合同で催し事を行ったり勉強会を行ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の思いや不安を受け止め、ご本人の声に耳を傾けながら安心を確保するための関係づくりに努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の立場に立って、ご家族が求めているものを、理解し、話し合いをして次の段階の相談につなげている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人やご家族の思いに可能な限り柔軟な対応をし、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の思いに共感し理解し、お互いが協働しながら和やかな生活ができるようセッティングや声かけをしている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員はご家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるためにご家族と同じ思いで支援していることを伝えるよう努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域に暮らす馴染みの知人・友人と継続的な交流ができるよう働きかけている</p>	<p>手紙や電話の取次ぎや、友人に訪問依頼の伝言を伝えている。家族に美容院へ連れて行ってもらったり、夏祭りや近くの介護施設の行事に参加する等地域で暮らす馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合った者同士で過ごせる場面づくりをし、調整役となり支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も行事に招待し継続的な付き合いができるよう心掛けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉掛けや思いの意向の把握に努めている。言葉や表情等からその真意を推測困難な場合にはご家族から情報を得るようにしている	日々の言葉やちょっとした行動から、把握できるように関わりを深めている。また家族との良好な関係作りをして、家族を介しての意向把握にも努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の利用者様について、その人独自の生活歴やライフスタイル・個性や価値観を把握しご本人のためのケアに活かす。また、プライバシーへの配慮を忘れないように努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ひとり一人の生活リズムを理解すると共に行動や表情などから感じ取り、その方の全体の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の想いに可能な限り柔軟な対応をし、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげているご家族には、日頃の関わり合いの中で思いや意見をお聞きし、アセスメントを含め、スタッフ全員で意見交換・モニタリングを行っている	見直し時期のサイクルだけに拘らず、職員全員で家族と連携して、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。また入居間もない時期には、家族の他に、病院や施設に意見を求め、その時に適した計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、食事・水分量・排泄状況・日々の暮らしぶりを記録し、職員が確認できるようにし、個別記録を基に介護計画の見直し・評価を実施している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう関係団体、民生委員と意見交換する機会を設ける		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も事業者の協力医やかかりつけ医での医療を受けられるよう御家族と協力し通院介助を行ったり往診にきていただいたりしている	利用者や家族の希望に沿って、かかりつけ医での受診が出来るよう支援し、家族に代わって通院の介助をすることもある。家族が受診に付き添った場合には、結果連絡の引き継ぎを受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員不在時は介護記録を基に確実な連携を行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、2～3日に一度は職員が見舞うようにしている。また家族とも回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や御家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように随時意志確認をしながら取り組んでいる	入居時に家族に説明をし確認を得ている。また、重度化した場合、医師や看護師と連携を取り、何度も家族と話し合いを重ねている。家族が泊まり看取るなど家族が望む終末期に向けた支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や、夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備し、勉強会や話し合いを行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	食料や飲料水の準備、消防署の協力を経て、避難訓練、消火器の使い方等の訓練を行っている	スプリンクラーが設置され、水、カンパン、オムツ等の備蓄もある。消防署の立会いの下、避難訓練を行っているが、民家が離れていることもあり地域の人々の参加はない。	災害時には、少し離れた所からでも、なんとか地域の協力が得られるよう、運営推進会議や市町村担当者も巻き込んで、地域との協力関係の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけている。情報収集や連携の際には守秘義務を充分理解している	トイレ誘導の声掛けは他の人には聞こえないよう耳元でささやくようにしている。また居室のドア窓には、のれんを掛けて、廊下から見え過ぎないように配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時のご本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別ケアが提供できるよう支援を行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人がこだわってみえるスタイルを把握し、その方らしさを保てるようサポートしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に収穫した野菜を使い、食欲を高めたり、職員も一緒にテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている	いただき物や、利用者と共にホームの畑で収穫した野菜を使った献立を作り、えんどうの筋とり、もやしひげ取りなどでみんなで出来る簡単な下ごしらえを行い、職員も一緒に食卓を囲み、食事が楽しめるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に確認するようにし、ご本人が食べやすいものを出すよう工夫している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は、声掛けや見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い嚥下障害による肺炎防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にもトイレでの排泄習慣を大切にしながら、オムツやパット類もご本人の状況に合わせていけるよう検討している	夜間は睡眠の妨げにならないよう、本人の意思を尊重している。トイレ誘導したり、オムツ又はパッドの交換するタイミングなどを考慮し、一人ひとり排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には、食物繊維の多い食材を提供し、腸の運動を促進するよう散歩に誘う等の支援を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する日を職員が一方的に決めず、利用者様のその日の希望を確認した上で入っていただいている	夕方までの時間帯であれば、希望の日および希望時間の入浴が可能で、毎日入浴している利用者もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情・希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも職員が把握できるようリビングに設置してある。利用者様の状況に応じ確実に服用できる支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮していただけるよう、お願いできそうな仕事を依頼し、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換のために屋外に出掛けられるよう外出支援を行っている。楽しみごとを企画し外出できるよう支援している	木曜日のシーツ交換の時間を利用して喫茶店へ行く習慣にしている。また時々遠出をし、事前に店に車椅子を借りれるよう依頼をしたり、外食時にトロミを持参するなど楽しめる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心や満足に向けて御家族とも相談しながら支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、電話をかけたり手紙を出したり出来るよう支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品は利用者様にとって使いやすい配置や馴染みのもとを取り入れ使いやすい物品を選んで置いてある	食堂は吹き抜け天井で、明るく開放的な空間となっている。利用者好みの皇室カレンダーを掲示し、季節に合わせた雑段飾り壁掛け等を飾ったりして、家庭的な雰囲気作りをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性等に配慮した居場所作りや、環境づくりを心がけている。仲のよい利用者様同士がくつろげるスペースがある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安らぎを得られるよう馴染みのものを居室に置いてもらい、居心地の良さに配慮している	利用者と家族の考えに沿って、馴染みのタンスやイス、家族との写真、位牌や利用者の書いた習字を貼ったり、鉢植えを並べるなど、利用者にとって、居心地良く安心できる居室としている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D-1,2を用いて利用者様の残存能力の把握に努めている。状況の変化に伴い、失敗や混乱が生じた時は職員がその不安や混乱を取り除けるようアプローチし、自立支援につなげている		

1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	(株) 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年4月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議時に、運営理念・職員の心得の唱和をし、その理念を皆で共有し実践するよう日々意識している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公共施設を利用したり、日常的に散歩をしたり、イベントに参加する等、地域に出向く機会を作り、交流できるよう取り組んでいる		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所前後の御利用者様・ご家族や、面会にみえた方や地域の方に対して、認知症介護の支援方法について等アドバイスやサービス利用についての情報提供を行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームにおける活動状況やインシデント・アクシデントの状況等を報告し、またご家族様の御意見を伺い、そこで出された意見を実際のサービスに活かしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、活動状況を把握していただいている。また、困難事例等の相談や情報提供を行い、連携を深めている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・高齢者虐待に関する勉強会を行い職員の理解徹底に努めている。生活されている利用者様に抑圧感を与えない暮らしができるようなケアを目指している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういう内容をいうのか等の正しい知識を勉強しながら、虐待行為に至る前の段階で防止するための、管理体制や職場風土の改善に向けて取り組む事ができた		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には社協や他事業所が主催する研修があることを情報提供している。成年後見制度の対象となるケースはないものの、制度についての理解を深め、支援できる体制を作って活きたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬の改訂による利用料の値上げ時や利用者様の状況に伴う料金の増加がある場合はその都度説明し、同意を得ている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、特に訪問時、何でも言っていただけの雰囲気づくりに心掛け、御意見や思いを職員間で共有し、ケアに反映させている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日頃のコミュニケーションを図っていく中で職員の意見やアイデアを反映するよう取り組んでいる		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場に訪れる等、現場で起きている状況の把握に務めて 必要に応じて迅速な対応をしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会においては、大まかな年間計画を立て、全職員が研修内容を共有できるよう報告する機会を作っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの体験実習を受け入れたり、他グループホームと合同で催し事を行ったり勉強会を行ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活暦を把握し、ご本人の思いや不安を受け止め、安心して生活できるよう早期からの信頼関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族からの電話相談・問い合わせ等柔軟に対応して、求めていることやこれまでの経緯等じっくり話しを聞き、早期に信頼関係を築くように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームとして出来ること、出来ないことを明確に伝えている。また、ご本人、御家族の思いを踏まえ、状況に応じて必要な支援を提案し、相談を繰り返している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御家族と離れて暮らす不安や苦しみに共感する姿勢を念頭に置き、利用者様が不安なく過ごしていただけるヒントを見つけ出す努力をしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問時には生活状況を細かく伝え、介護の大変さを理解し、共有し合える関係になれるよう努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や絵葉書で思いを伝えたり、近状報告をしたりする方への支援を行っている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの精神状態を把握し、お互いの生活に危険や負担が生じないように注意深く気配りし、話の合う利用者様同士過ごしていただけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談にのったり、再契約の手続きを行われた際は、その後の状況把握に努め、再入所していただきやすい体制を心がけている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中でご本人の話す内容や表情などから、真意を汲み取るよう努め、情報を共有しながらケアに活かしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人がこれまで生きてこられた生活状況等、関わり合いの中で好きなもの・得意だったことを聞き出し、暮らしの中に取り入れていけるよう支援している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムや体調・心理状態を細かく記録し、全体像が把握できるよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族との関わり合いの中でさまざまな意見や思いを聞きだし、その方らしく暮らせるよう職員全体で話し合い、意見交換をしながら、介護計画を作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報交換(申し送りノート・口頭での説明・介護記録にて)や、日々のケアの気づきを記録し、利用者様の状況に合ったケアの見直しを行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の要望に臨機応変に対応し、通院や外出・外泊の送迎や引率の支援もやっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や地域の保育園・小学校・中学校とのさまざまな関わり合いの中で地域住民の一員として暮らしていけるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の際には必ずかかりつけ医の希望等の確認をし、ご本人の状況に応じた治療が受けられるよう支援している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化の早期発見に心がけ、早い段階で対応できるよう看護師への報告の徹底や記録等による職員間の情報共有に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も2～3日おきには見舞い、主に看護職員が医療従事者や御家族と連携を図り、早期退院にむけてアプローチしている。また、退院後の必要なケアが引き継げるよう多方面との連携も行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時期からホームの方針について説明し、早い時期からご本人・御家族の意向を把握するよう努めている。終末期には御家族・主治医・職員間の情報の共有や統一した方向性を定め、一丸となって取り組んでいる		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時におけるマニュアルを作成し、各ユニットに設置している。消防士による蘇生法の実施指導を受けたり、夜勤帯の連絡方法や離設者発生時の対応マニュアルを作成し、迅速に対応できるようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火の訓練・避難経路や誘導方法の確認を全職員で行っている。また自治会によるホース点検にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての尊敬の念を持って接し、人格の尊重とプライバシーの確保は常に保つ事ができるよう対応している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わり合いの中で、ご本人の話す内容や表情などから、真意を汲み取るよう努め、情報を共有しながらケアに活かしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の一日のパターンを把握した上で、体調・天候によって、散歩や外出の支援が出来るよう、積極的に働きかけている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた服の交換は直ちに行い、整髪や散髪の支援はご本人や御家族の意向により支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みや、体調、口腔内や嚥下の状態に応じ、個別の食事形態のものを提供している		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量の状況は介護記録に記入し多い・少ないが人目で把握できるようにしている。その方のペースに合わせてタイミングやメニュー等を個別にも対応している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の掃除が出来る方は、出来るだけご自分で行っていただけるよう支援している。個別ケアマニュアルに基づいたアプローチを行っている		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄状況を記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。ご本人の表情やサインを逃さず、迅速に対応できるようにしている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、タイミングをみて腹部マッサージを行ったり、ゆっくり便座に座っていただく環境づくりに心がけている。また、こまめな水分摂取や食物繊維の多く含んだ食品の提供を配慮している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭用サイズの個浴に、ご自分のペースでゆったりと入浴ができるよう工夫している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの体調や体力を把握し、日光浴を行う等安眠ができるよう工夫している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつも職員が把握できるようにリビングに設置してある。利用者様の状況に応じ、確実に服用できるよう支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様とのコミュニケーションの中で「出来ること」を見出し、楽しみにつながるよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や天候に応じて散歩や喫茶店に出掛けるなどの支援を行っている		

グループホーム 海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないよう、また自己管理能力を考慮しながら、ご本人・家族ともよく話し合っただけのよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から直接渡された手紙は必ず届くよう確認している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色目の小物を置いたり、花や果物を置いて、季節感や生活観のある空間づくりを工夫している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーやロビーには椅子を置き、利用者様が自由に寛げる空間づくりに心がけている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品物、家具等を持ち寄り、利用者様の精神的負担がかからないよう配慮している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D-1・2を用いて利用者様の残存能力の把握に努めている。歩行や車椅子走行の妨げにならないよう、動線を把握し、安全で自由に動いていただけるよう工夫している		